

# 2024年度（令和6年度） 町田市立南中学校 理科 1年 年間指導計画及び評価基準

使用教科書：理科の世界（大日本図書） 年間授業時数：105時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価基準		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ～ 8	1、生物の世界 1章 身近な生物の観察 2章 植物のなかま 3章 動物のなかま 単元末・読解力問題	27	○いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ○身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。 ○いろいろな生物とその共通点に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	観察1 校庭周辺の生物の観察 実習1 生物の分類 実習2 花のつくり 観察2 果実のつくり 観察3 植物の葉や根のつくり 観察4 無脊椎動物の観察 上記の観察・実習を行い、レポートを作成する。 生物のつくりから、分類を理解する。 ICTの活用。	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方、生物の体の共通点と相違点を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現している。	いろいろな生物とその共通点に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
9 ～ 12	2、物質のすがた 1章 いろいろな物質 2章 気体の発生と性質 3章 物質の状態変化 4章 水溶液 単元末・読解力問題	25	○身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた及び状態変化、水溶液のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ○身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現する。 ○身のまわりの物質に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	実験1 白い粉末の区別 実験2 身のまわりの気体の性質 実験3 液体⇄固体の状態変化 実験4 蒸留 実験5 再結晶 上記の実験を行い、レポートを作成する。 変化の様子をモデルで表す。 ICTの活用。	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、物質のすがた、水溶液、状態変化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現している。	身のまわりの物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
4 ～ 12	3、身近な物理現象 2章 音の性質 3章 力と圧力 単元末・読解力問題	26	○身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ○身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現する。 ○身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、	実験1 光の反射 実験2 光の屈折 実験3 凸レンズによる像 実験4 音の大きさや高さ 実験5 力の大きさとばねの伸び 上記の実験を行い、レポートを作成する。 作図を行う。	身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現している。	身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

			科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るようになる。	ICTの活用。	ている。		
1 ～ 3	4、大地の変化 1章 火山 2章 地震 3章 地層 4章 大地の変動 単元末・読解力問題	2 7	○大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ○大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見い出して表現する。 ○大地の成り立ちと変化に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見るようになる。	観察1 火山噴出物の観察 観察2 火山灰の観察 観察3 火成岩の観察 実習1 地震による地面の揺れの広がり方 実習2 地震による地面の揺れの伝わり 観察4 地層の観察 観察5 堆積岩の観察 上記の観察・実習を行い、レポートを作成する。 柱状図から地層の広がりを考える。 化石を観察し、過去の環境と年代を推定する。 火山や地震の多い場所を調べる。 自然の恵みや災害を調べてみる。 ICTの活用。	大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、身近な地形や地層、岩石の観察、地層の重なりと過去の様子、火山と地震、自然の恵みと火山災害・地震災害を理解しているとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けている。	大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見い出して表現している。	大地の成り立ちと変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

※ 大半の授業で、映像や資料提示のために ICT を活用しています。